



立木プロジェクトの概要

「福祉専門職と共に進める「誰一人取り残さない防災」の
全国展開のための基盤技術の開発」

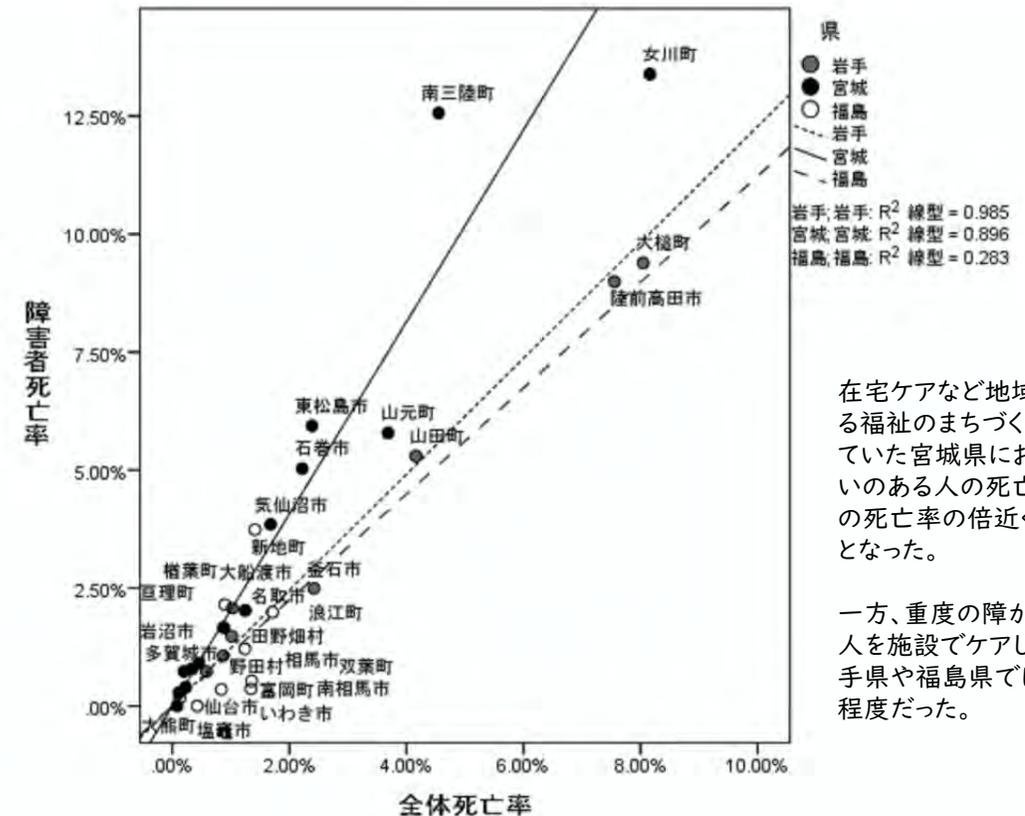
問題意識

- ・ 東日本大震災での障がい者死亡率の高さ
- ・ 各地被災地の避難所で障がい者の姿を見かけない・・・
- ・ 東北三県の全体死亡率に対し、障がい者死亡率は約2倍
- ・ 宮城県は在宅でサービスを受けている人が多く、それゆえに被災時の支援が十分に届かなかった可能性。
- ・ 平時であれば相談支援専門員や介助者などの適切な支援を在宅で受けられるが、ひとたび災害が起これば、1人の専門職が全ての利用者を同時に支援することはできなくなる。



要支援者のことを熟知し、信頼されている福祉専門職が、平時から家族や当事者と一緒に、福祉専門職が駆けつけられない災害時に近隣からの支援をあらかじめマッチングした災害時ケアプランを作成しておくことが重要。

<東日本大震災における全体死亡率と障がい者死亡率の比較>



在宅ケアなど地域で暮らせる福祉のまちづくりに注力していた宮城県において、障がいのある人の死亡率は全体の死亡率の倍近く(1.9倍)となった。

一方、重度の障がいのある人を施設でケアしていた岩手県や福島県では1.2倍弱程度だった。

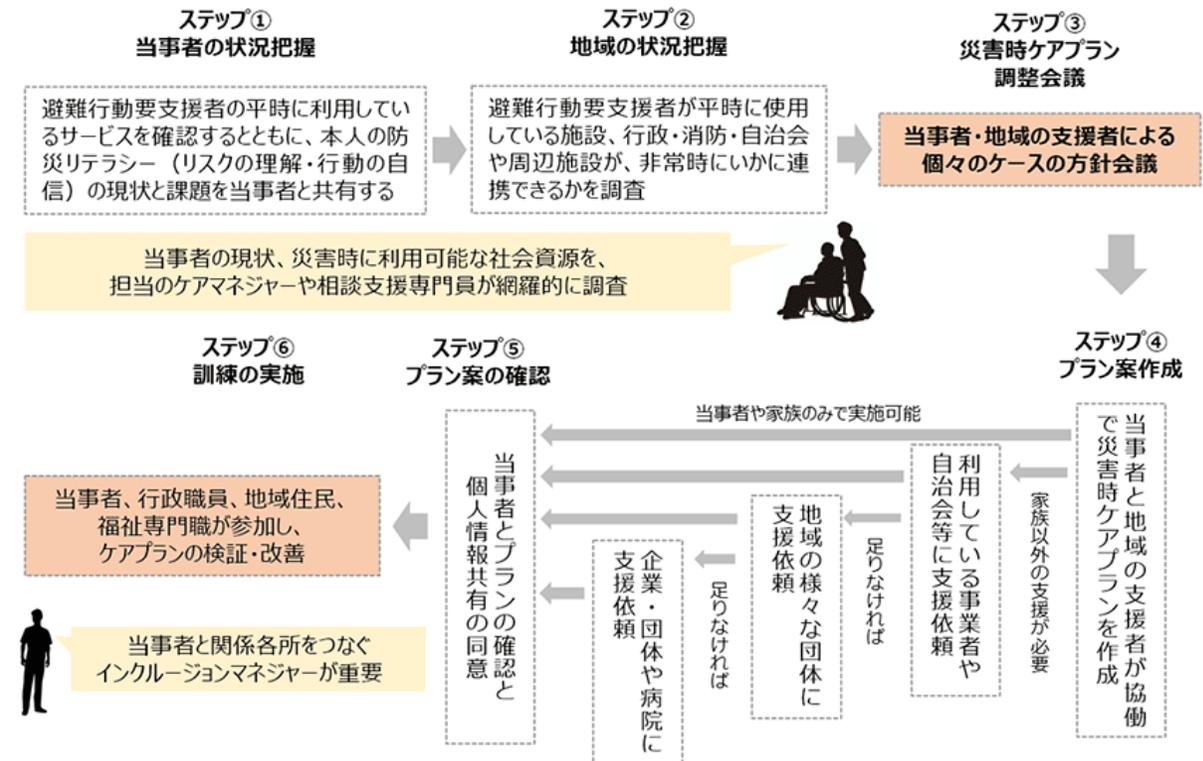
■ 先行取り組み

- ・ 協働実施者の村野氏（別府市）が模索しながら進められ、全国に先駆けて「個別避難計画作成事業（通称「別府モデル」）」を確立されている。
- ・ 大きな特徴は、本当に避難すること、そして避難所で一定期間過ごすことを想定し、避難所までの具体的な移動方法、避難先で必要な設備などの綿密な計画を作り、さらに地域ぐるみで避難訓練も行うことで、実行可能なプランにまで落とし込む点
- ・ 村野氏は福祉や防災といった境界を越えて人と人をつなぐのが上手く、信頼関係を築けるように間に入って奮闘し、実行可能な災害時ケアプランを作り上げていかれるが、誰もが村野さんと同じ働きができるわけではない



全国で実装するカギは、村野氏の役割や技能を解析し、各自治体で人材育成すること。

<別府モデルの6つのステップ>



立木プロジェクトの概要



SDGsの達成に向けた共創的研究開発プログラム
シナリオ創出フェーズ
ソリューション創出フェーズ

RISTEXプログラムでの取り組み(1)

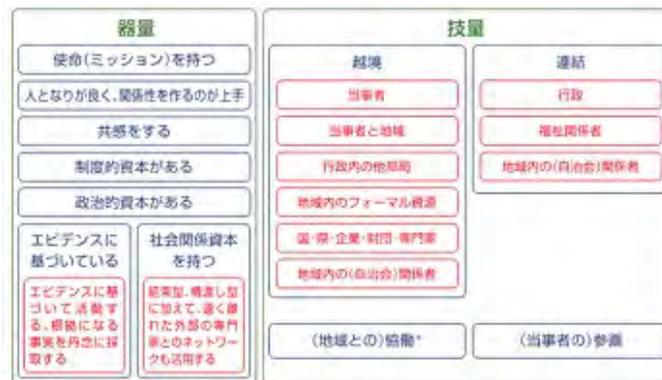
- ・村野氏の持つ「器量」「技量」の分析を行い、100以上のキーワードを抽出し、境界間を連結し、境界間関係を運営・管理する **インクルージョン・マネージャー(IM)**の要素※を定義。

※自分の所属・役割を越えて他部門・他分野の領域に『越境』し関係者を『連結』し、『協働』により物事を動かし、当事者の『参画』を促す『越境—連結—協働・参画』のサイクルを回す『技量』が重要!

- ・福祉専門職向けのi-BOSAIブックレットの刊行
- ・e-ラーニング教材やアプリの開発
- ・上記教材やツールを活用した福祉専門職に向けた研修実施
- ・ハイブリッド形式のカリキュラムを開発し、インクルージョン・マネージャー養成研修を全国に向けて実施

事業を定着させて、日本国内外に展開させていくための仕組みや体制等が必要。

<IMに求められる器量と技量の例>



<研修事業で利用する映像>



<i-BOSAIブックレットシリーズ>



<安心防災帳アプリ>



<福祉専門職に向けた防災対応力向上研修>



<インクルージョン・マネージャー養成研修>



■ 課題

- ・自治体に「真に支援が必要な者」については、市町村への個別避難計画の作成が義務化されたがその事実について、きちんと認識していない自治体が多く見受けられる。

■ 今後の取組

- ・事業を進めている自治体の行動から、ステップに沿った業務実態をお手本として提示していく。
- ・業務が継続的に実施されるための「要綱・マニュアル」等の行政文書や規定を作成する。
- ・行政内だけにとどまらない共有プラットフォームが設立されるように促していく。

■ 今後の更なる取組

- ・事業が統括できる「統括IM」の育成
- ・統括を補佐する「エリアIM」の育成
- ・福祉専門職研修、IM研修、地域リーダー育成研修を全国単位で実施
- ・インクルーシブ防災先進国として、海外向け教材開発、海外向け研修等の実施

立木プロジェクトの概要（参画者）



SDGsの達成に向けた共創的研究開発プログラム
シナリオ創出フェーズ
ソリューション創出フェーズ

多様な知の組合せと、自治体・住民・NPO等様々なステークホルダーとの共創により、研究開発と社会実装を推進



■研究代表者■ 同志社大学

■協働実施者■ 別府市

■別府市展開■ 別府市

■IM研修仕組■ 同志社大学
慶応義塾大学
全国災害ボランティア支援団体NW
別府市
ダイバーシティ研究所

■他地域展開■ 兵庫県社会福祉士会
滋賀県
高島市
大津市

■福祉専門職研修■ 兵庫県社会福祉士会

■専門職学び場■ 日本相談支援専門協会

■制度改正等検討■ 新潟大学
大阪公立大学
防災科学技術研究所
別府市

■当事者によるアウトリーチ■ 認定NPO ゆめ風基金
ダイバーシティ研究所
日本障害フォーラム加盟諸団体

■安否確認システム■ 大阪公立大学
防災科学技術研究所

■ツール開発■ 防災科学技術研究所
九州大学
東北大学
株式会社おかのて
ESRIジャパン株式会社
国立障害者リハビリテーションセンター研究所
日本総合システム株式会社

■海外展開■ JICA
エクアドル国
タイ国

【人文・社会科学等】

同志社大学
慶応義塾大学
新潟大学
大阪公立大学 等々

【自然科学等】

東北大学
九州大学
防災科学技術研究所
株式会社おかのて
ESRIジャパン株式会社
日本総合システム株式会社 等々

【現場知・地域知等】

別府市
兵庫県
滋賀県、高島市、大津市
兵庫県社会福祉士会
日本相談支援専門員協会
全国災害ボランティア支援団体NW
NPO法人ゆめ風基金
ダイバーシティ研究所
国立障害者リハビリテーションセンター研究所
JICA 等々

■ 多様な知の集め方

- ・ 自然に多様なステークホルダーが集まることは無く、複数個所への複数回にわたる“越境”を行い、根回しを行い、場設定を行い、演出も設計して“連結”を目指し続けることでようやく、多様な知を集めることができた。

■ 新しい価値の生まれ方

- ・ 上記の“越境”や“連結”を行う際に、具体的な助けたい人、助けるべき人として目に見える形で具体化しそれをナラティブに共有をすることで、ステークホルダーのモチベーションやインセンティブを高めることで、新しい価値が生まれてきた。

立木プロジェクトでの、取り組み姿勢の基本は

「ステークホルダーがラグビーのスクラム(皆が泥をかぶりながら進めて行く)を組んで進める!」



立木 茂雄
(同志社大学 社会学部 教授)

- RISTEXは、
「総合知」活用による研究開発事例や
「総合知」活用に向けた領域・プログラムの設計事例
などのグッドプラクティスを紹介するWebサイトを
2021年9月に開設。

- 今後も引き続き、
複数の学問知の活用、アカデミアと現場の協働、
セクター横断の取組など、
「総合知」活用のあり方について俯瞰的な検討を
行いながら、社会課題の解決に資する研究開発を
推進してまいります。

<https://www.jst.go.jp/ristex/variety/sogochi/index.html>



「総合知」活用による研究開発事例

- ▶ 養育者支援によって子どもの虐待を低減するシステムの構築
(自然科学×人文・社会科学×自治体・医療・児相・NPOなど)
- ▶ 発達障害者の特性別評価法(MSPA)の医療・教育・社会現場への普及と活用
(学術知×病院・学校・保育)
- ▶ 分散型水管理を通じた、風かおり、緑かがやく、あまみず社会の構築
(自然科学×人文・社会科学×多世代の地域住民・団体)
- ▶ 人工知能と人間が支え合って暮らすための新たな社会システムの考案
(自然科学×人文・社会科学)
- ▶ 感染症対策における数理モデルを活用した政策形成プロセスの実現
(学術知×医療現場・自治体・公衆衛生政策)
- ▶ 津波災害総合シナリオ・シミュレータを活用した津波防災啓発活動の全国拠点整備
(自然科学×人文・社会科学×自治体・教育委員会・小中学校)



「総合知」活用に向けた領域・プログラムの設計事例

- ▶ SDGsの達成に向けた共創的研究開発プログラム(シナリオ創出フェーズ、ソリューション創出フェーズ)
(「研究者」×地域で課題解決にあたる「協働実施者」による共同提案)
- ▶ 科学技術イノベーション政策のための科学研究開発プログラム
(「研究者」×政策課題を抱える「政策形成者」の連携・協働)
- ▶ SDGsの達成に向けた共創的研究開発プログラム(社会的孤立・孤独の予防と多様な社会的ネットワークの構築)
(学術的研究×予防施策を講じる実際の現場での実証と施策化の一体的推進)
- ▶ 科学技術の倫理的・法制的・社会的課題(ELSI)への包括的実践研究開発プログラム
(自然科学の研究者×人文・社会科学の研究者×社会の多様なステークホルダーが協働したELSI対応を実践)